

あ

あおば学園

知的障がいを持つ3歳から就学前までの幼児の通園施設。1974（昭和49）年7月1日開園。定員は30人。建物は鉄筋コンクリート造の平屋建てで、延べ床面積419.36㎡。日常生活や集団生活における基本的な生活習慣を養うための指導・教育にあたっている。開園当初は4歳から18歳までを入園対象としていたが、1979（昭和54）年の養護学校設置義務及び就学義務の部分施行を受け、現在は判定や審査等により決定された知的障がいを持つ就学前の幼児が通園している。

〈昭和49年6月5日号〉
 【所在地】青柳6-61-1
 【電話】936-4972
 □つばさの森

あおやちよう
青柳町

市の北東部にあり、東は八潮市、北は越谷市に接している。江戸時代から明治初頭までは青柳村、1879（明治12）年の郡区町村編成法施行により南埼玉郡南青柳村と改称。1889（明治22）年4月から1955（昭和30）年7月までは南埼玉郡川柳村大字南青柳と称していた。1955（昭和30）年8月1日に草加町と合併するまでは、古綾瀬川を境界として、北足立郡草加町とは行政的に異なる地区だった。2000（平成12）年11月1日に住居表示の実施により、青柳町は青柳一丁目から八丁目と青柳町に分けられた。

青柳とは、低湿地帯に柳が自生していたところから名付けられたといわれている。町内には1330（元徳2）年の題目板碑をはじめ古い石造物が

数多く残され、早くから開かれた地域であったことが分かる。

〈平成元年3月5日号〉

□住居表示整備事業 草加町 古綾瀬川

あか
赤バイ隊

2005（平成17）年3月31日、大規模災害時の情報収集や初期消火を行う自動二輪車「赤バイ隊」が発足した。赤く塗装された排気量223ccのモトクロスバイクで、赤色回転灯、サイレン、粉末消火器2本と背負い式の消火器具を装備している。消防署、青柳分署、北分署に各1台を配置し、災害に備えている。

〈平成17年4月20日号〉

□トリアージ用マウンテンバイク隊
 防災マウンテンバイク隊



アコス (AKOS)

草加駅東口第一種市街地再開発事業により、1989（平成元）年3月着工、1992（平成4）年2月21日に完成した再開発ビル。「AKOS」の愛称は、公募により2673通の中から決められ、「Akro of Soka（草加の核）」の頭文字をとったもの。また、「AKOS」を逆から読むと「SOKA」となる。

ビルは北館（地下3階、地上9階（塔屋1階含む）、延べ床面積3万1900㎡）と南館（地下3階、地上8階（塔屋1階含む）、延べ床面積3万5500㎡）からなり、地下通路、2階の歩道橋、5階の上空通路で結ばれている。2本の展望エレベーターと上空通路のある外観は、「草加の門」をイメージしている。

ビル内にはテナントとして地元専門店、丸井、イトーヨーカドーが入り県東部有数の商業ゾーンとなっている。地下駐車場の収容台数は474台。南館には、市の多目的文化施設「アコスホール」（約470㎡）や会議室、ギャラリー（約100㎡）、屋上庭園などもある。アコスホールでは、コンサート、演劇、講演会など各種の文化イベントが催される。南館前のカーソンプラザにはミニステージがあって、市民のイベント等で活用されている。また、南館西側壁面にある「ニューシネビジョン」では、アコス主催のイベント情報などを流している。

〈平成3年8月20日号・平成3年12月20日号〉

【電話（アコス）】922-7000

□駅前再開発 カーソンプラザ 草加駅東口再開発事業



アコちゃん

1992（平成4）年2月にアコス南館前に設置された、「草加せんべいを食べる少女」がモチーフのプロズ像。アコスにちなみ「アコちゃん」と命名された。制作者は麦倉忠彦で、草加中央ライオンズクラブが寄贈した。なお、広場には、草加せんべいの



創始者である「おせんさん」の像もあり、これも麦倉の制作によるもの。〈平成3年12月20日号・平成4年2月5日号・平成20年4月20日号〉

□アコス おせんさん 草加せんべい

あさおひち
朝顔市

草加市観光協会が、観光振興とふるさと意識高揚のために1983（昭和58）年7月10日から始め、今ではすっかり草加の初夏の風物詩として定着した恒例イベント。会場は当初、旧道沿いの本通り商店街であったが、1992（平成4）年からは草加松原遊歩道。毎年7月の第1日曜日、午前7時から開催される。

当初は岩槻の園芸農家などで栽培されたアサガオを販売していたが、市内産も徐々に増え、2007（平成19）年からは全て市内で栽培されたアサガオとなった。草加せんべい、ゆかた、皮革製品などの地場製品や、地元産の新鮮な農産物や花きなども販売。



また、1985（昭和60）年5月から都市山村交流を行っている昭和村で穫れた新鮮な農産物なども販売される。草加さわやかさんもゆかた姿で販売に一役買っている。

〈昭和58年7月20日号・平成4年6月20日号〉

【電話（観光協会事務局（産業振興課内））】922-0151

□観光協会 昭和村 草加さわやかさん 草加の地場産業 草加の農産物 草加松原遊歩道

あさこけ
浅古家の地蔵堂

市役所前にある、地蔵菩薩立像を祀る堂。建築様式は、本瓦葺（現在は銅板葺）宝形造で、正面のみ向拝をつけ、屋根を葺き下ろしている。創建は江戸中期、草加の豪商大和屋の浅古半兵衛による。赤堀用水を流れてきた地蔵を拾い上げ、子育て地蔵として祀ったものとの言い伝えが残る。『浅古六代記』には、1859（安政6）年に堂が建て替えられた旨の記述がある。宿場町の南境に位置することから、災厄を防ぐ境神にもなっていた。地蔵菩薩立像には1667（寛文7）年の銘があり、造立は江戸前期と考えられている。

堂の開帳は、12月を除き毎月24日となっている。

〈平成18年7月20日号・平成20年5月20日号〉

□市役所

あさひちよう
旭町

市内北部にあり、地区内を南北に東武鉄道、綾瀬川沿いに県道足立越谷線、中央を東西に外かく環状道路が走る。現町名は、1958（昭和33）年11月1日の市制施行の際に定められたもので、新田開発した九左衛門知勝の九を起源とする。

江戸時代から1889（明治22）年3月末までは、九左衛門新田と呼ばれていた。1889（明治22）年4月の市制・町村制施行により、篠葉（弁天）、金石衛門新田（金明町）、槐戸（八幡町）等9か村からなる新田村が発足、新田村大字九左衛門新田と称した。1955（昭和30）年1月草加町との合併後も大字九左衛門新田は残されていた。

九左衛門知勝は、下野国（栃木県）佐野の住人、猪野監物藤原吉の嫡子であったが、浪人となって領家村（川口市）に移住。その後、領家村の村人を伴って1626（寛永3）年にこの地の新田開発をしたと伝えられる。地名の起源となった九左衛門は、地内の旭天満宮の「九左衛門新田開発縁起碑」（1852（嘉永5）年）に詳しく記されている。

1970（昭和45）年4月1日の住居表示の実施により一丁目から六丁目に分かれた。

〈草加の社寺資料・平成元年1月20日号 P134～135〉

□綾瀬川 外かく環状道路 県道足立越谷線 住居表示整備事業 東武伊勢崎線

あすまちよう
遊馬町

市の南西部に位置し、北と西は川口市、南は東京都足立区と境を接する。北足立郡東遊馬村が1889（明治22）年4月1日の市制・町村制施行により、同郡谷塚村（1940（昭和15）年に谷塚町）大字東遊馬となり、1958（昭和33）年11月1日、市制施行とともに遊馬町となった。